

鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ (21)

前橋市 富山 弘毅

維摩寺 「解憂所」^{ヘウソ}って？

光州滞在 3 日目の午後。仙巖寺、松広寺のあと双峰寺（サンボンサ）に行く予定が時間不足で変わり、光州への帰り道にある維摩寺（ユーマーサ）に寄りました。

昼食抜きでした。山の奥にある古刹の中には参詣者のために宿屋や食堂があるところもありますが、多くは弁当もちでないといけない。金運転手が気を利かせて「家にあったので」とスナック菓子をわざわざ持ってきてくれたので、ほんの少し空腹をしのげましたが。

維摩寺はそれほど大きな寺ではありませんが、最近、いくつもの建物に修理の手を入れたらしく見えました。



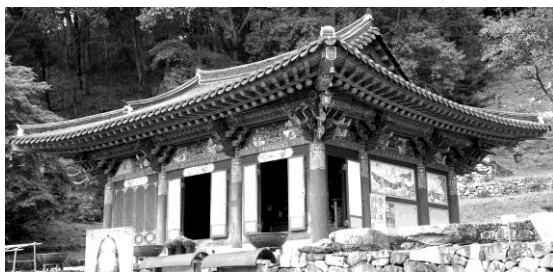
維摩寺の隅瓦 鬼



維摩寺の軒先瓦



困ったことにどの建物にも看板がなく、人影も見えず、どれが大雄殿なのか、何なのか、まったくわかりません。



鬼の隅瓦が 1 つ、龍の隅瓦が 2 つありましたが、新鮮な発見はありませんでした。



薪が積んであるオンドル小屋らしきものがありました（写真・下）。



ただ一つ見つけた案内看板が「解憂所＝ヘウソ」。この表現に感心させられてニヤリとしながら、今回の韓国南部の寺院めぐりを締めくくることになりました。



海兵隊を志願した金運転手

タクシー運転手の金銀宗(キムウンジョン)さんは、光州市の隣町のアパート住まい。郊外が「安い」からだといいます。奥さんはデパートの婦人服売場の店長(マネージャー)で、中2と高2の子どもがいるそうです。

韓国の男性は4年間の兵役が義務。金さんは「男らしい海兵隊に惹かれた」ので、志願して行ったといいます。「海兵隊というところは、厳しい、大変なところでしょう？」と水を向けると、「たいへんでした」と笑いました。「憲法九条しおり」を「奥さんにも」と渡しました。

韓国の人々は、朝鮮戦争で焦土となった記憶がまだ生々しく、しかも「いつ、また、北が攻めて来るか」という不安が支配しています。かつて日本が暴虐の限りをつくした罪を私達が詫び、9条で「不戦の誓い」をしていることは理解してくれても、韓国でにわかに「戦争放棄」や「軍隊廃止」になりにくいのも当然かもしれません。



タクシー運転手・金銀宗さん

薄い肉のカツ定食もGOO

1時間たっぷり高速道を走って、光州総合バスターミナルに着いたのは14:40。金運転手に心からの礼を言い、握手して別れました。

ここで遅いお昼を食べないと、釜山まで3時間半のバスに耐えられないでしょう。

15:20 発のバスがありましたが、その次の16:00 発のチケットを買って、「味噌屋」という看板の和食堂へ。若い店員が3～4人、無愛想に働いていて、落ち着いた雰囲気でした。W7,500 のカツ定食は薄い肉でしたが味はまあまあ GOO でした。

観光案内所の女性にお礼を言いたかったのですが、日曜日のせいか、お休みらしく、会えませんでした。

釜山行き的高速バスは、こんどは20人以上の乗客でした。TV中継の韓国のプロ野球を眺めたり、車窓の田園風景に目をやったりして過ごしました。釜山に近づくときかなりひどい渋滞でしたが、定刻10分遅れの19:40に釜山総合バスターミナルに到着しました。

構内のうどん屋でかけうどん W3,500。なかなかコシのある麺で、日本の立ち食いうどんよりよほどマシでした。汁はやや辛かったけど、おいしく食べました。釜山駅の東のうどん屋台村を含めて、釜山近辺ではうどん屋をたくさん見かけました。日本流のうどんが最近、人気のようです。

したたかな老人の車内行商

老圃駅からホテルのある中央洞まで、地下鉄1号線で1時間近くかかります。立っている乗客もかなりいる混み具合でした。

途中で大きな荷物を3つもかついで乗り込んできた70歳台の男性が、白い封筒の100枚くらいの束を抱えて、座っている乗客のひざの上に1束ずつどんどん置

いていきます。

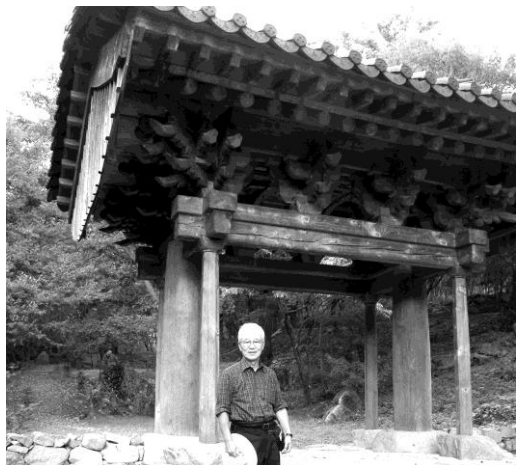
日本では見られない光景です。まさか、タダでばら撒くのもなかろうが、と見てみると、2~3 駅過ぎたところで回収しながら戻ってきます。1,000 ウオン札を渡して買い取る客も3~4 人見えます。老人のところに買いに来る客もいて、6~7 駅の間には10束や20束は売れたようでした。夜 9 時ごろの、たくましい車内行商人でした。

旅行会社の観光ツアーではわからない韓国の人々の暮らしの一端をのぞいた気がしました。

韓国南部鬼探しの旅 行程

2011 年 10 月

- 1 日目 成田→金海空港→釜山3連泊
- 2 日目 釜山市内（内院精舎、仙岩寺、三光寺、海東龍宮寺、釜山市立博物館）
- 3 日目 釜山駅→高速鉄道KTXで26分、新慶州駅。慶州市内（祇林寺、骨窟寺、栢栗寺、芬皇寺、菩提寺、国立慶州博物館）
- 4 日目 釜山市内（梵魚寺）釜山→光州（高速バス、3 時間 30 分）2 連泊
- 5 日目 光州市内（証心寺、薬師寺、文彬精舎、光勒寺、興国寺、法弥寺、元暁寺、無覚寺、国立光州博物館）
- 6 日目 光州から高速道で遠征（仙岩寺、松広寺、維摩寺）光州→釜山泊
- 7 日目 釜山・金海空港→成田



維摩寺一柱門前で 筆者

6回の訪韓で 鬼瓦のルーツが見えてきた？

6 回目の訪韓を終えて、私の「鬼瓦のルーツ」探しは一山超えて、新しい段階に入る気がします。

慶州博物館が「2012 年から『鬼面瓦』はすべて『龍面瓦』に表記を書き替える」としたこと、そしてソウルの国立中央博物館ですでに 2010 年には書き替えられていることが、私にとってかなり決定的でした。日本の鬼瓦のルーツが朝鮮の龍にあったとってよいのではないかと考えてきたのです。

しかし、待てよ。私はこれまでに韓国の寺院 53、古城 3、宮殿 8、国公立博物館 7、その他民俗資料館や観光施設、古い民家などを訪ね、瓦を見つめてきましたが、韓国全体からすればまだ一部です。これで結論を出すのは、やや早計ではないか。

とくに東北部、すなわち江原道（ガンウオンドウ）、忠清北道（チュンチョンブクドウ）を歩いていないし、慶尚北道（キョンサンブクドウ）は南部の慶州付近だけにしか行っていません。北朝鮮の鬼瓦も調べられないでいます。

北朝鮮に行くすべがない現在、北に近い地域、とりわけ江原道の寺院を調べて補う必要があるのではないか。

この韓国東北部は、距離と方位から日本に近いこと、高句麗が立国していた地域であることなど、本当はもっと注目するべきではないか。ただ、寺院がいつそう深い山の中にあること、交通の不便な地域であること、観光案内書にはほとんど出てこないところであることなどから、困難があり、とっつきにくかったのです。

しかし、観光ツアーコースには全く入っていないものの、インターネットで調べてみると、結構ソウルなどからの高速バスが通っており、ホテルも多少はありますから、タクシーを借り切ることもさえ出来れば、鬼瓦探しの旅は不可能ではないように思えます。

と考えると、韓国からお嫁に来た方に聞いてみたら、韓国東北部は観光地化されていないこと、北朝鮮に近くいろんな意味で外国人の一人歩きは気をつけたほうがいいこと、カメラを没収されたり、時には拉致されたりする危険もあること、どうしても行くのなら、しっかりした韓国人に同行してもらおうのほうがいいということです。

そんな旅、実現できるでしょうか。

まだまだ課題がある

さらに韓国では鬼瓦にどんな意味を持たせているのか、まだつかめないうちです。

例えば、今回の旅で、釜山の寺院で多く発見した「らくだ型」の「龍頭瓦」は、ソウルをはじめ韓国全土の寺院で見られ、存在感は抜群です。日本の鬼瓦を超える立体的造形です。これがどうして中国にも日本にも伝わらないのでしょうか。

慶州 望月寺 龍頭瓦と鬼瓦



濟州島サラボン公園入口門 龍瓦

また、栗型の鬼面の隅瓦は韓国全土の寺や宮殿で見られます。これも、韓国独特の瓦です。「鬼でもだるまでもなく、トッケビ（化け物）だ」といった僧侶がいましたが、ただ量産され普及しているというだけでなく、特別な意味を持っているのに違いありませんが、それは何でしょうか。



水原華城 西将台 隅瓦 鬼
(トッケビ=化け物説も)

それらを探求するのに必要な条件を、残念ながら私は持ち合わせていません。学者でもないし、韓国語も出来ないし、時間もお金もないし。

あるのは、ただ、日本中歩き回って鬼瓦の写真を35年間で3万コマ近く撮り、鬼瓦のルーツを求めて韓国の山中まで回っているのは、日本中で、だから世界中で、多分、私だけではなかろうかという、ひそかな自負だけです。

世界鬼学会2011年の会報(第16号)には、「鬼をたずねて百万里②」と、「鬼探しの旅・余話」として「鬼面瓦か龍面瓦に慶州博物館、全面表記替え」を寄稿しました。

(つづく)



「世界鬼学会会報2011」表紙